

ねらい	新1年生同士の関わりを広げるとともに、グループで協力する気持ちを養う。		
教科・領域	特別活動	時間	2時間
対象	高校1年生	人数	15人
活動の流れ	活動名	概要	○留意点 ●指導者の視点
	ウルトラマンチェック	○質問に対して、腕の角度で自分の答えを得点で表し、お互いの状態を知り合う。	○質問項目 ・アウトドア派 ・ゲームが好き ・グループのメンバーのことをよく知っている。
	じゃんけん	○ペアでじゃんけんをし、あいこになったら成功。 ○ペアでじゃんけんをし、相手の出した手を「石・鋏・紙」のどれかで早く言い合う。 ○ペアでじゃんけんをし、ゲーム100円・チョキ20円・パー5円として、たし算をする。 ○ペアで1回だけじゃんけんをし、あいこになったら成功。5人とあいこになった人から輪になる。目標は全員クリア。	●ペアを作るために自分から声を掛けているか、待っているか。 ○エラーを楽しむ気持ちが失敗を恐れずチャレンジする土台になる。 ●勝敗ではなく、関わりを楽しむ雰囲気があるか。 ●目標達成のため、クリアした人がみんなのためにできることは何か。
	絆カード	○8種類の絵が描かれたカードを見せ合い、お互いのカードに共通する絵柄を早く見つける。	●特定のメンバーとのみ関わっているか、自ら関わりを広げているか。
	キャッチ	○全員で輪になり、左手は上向き、右手は短いロープを持って、隣の左手の上に垂らす。「キャッチ」の掛け声で、左手はロープをつかみ、右手のロープは逃げる（アクティビティ集参照）。	●みんなでエラーを楽しむ雰囲気があるか。「キャッチ」の掛け声を言う一歩を踏み出せるか。
	集合写真	○1枚の絵を8等分したカードを配り、お互いのカードを見せ合わずに話し合っ、絵に関する問題(①絵の中には全員で何人いるか。②前列の右から3番目は誰か)を解決する。	●問題を解決するために、コミュニケーションにおいてどんな工夫をしていたか。
	見えない共通点	○4、5人のグループで話し合っ、て全員の共通点(目に見えないもの)を見つける。それぞれのグループで見つけた共通点の数や特徴的な共通点について紹介し合う。	○共通点を見つけることで親近感がわく(類似性の法則)。一方、違いからコミュニケーションが深まり、発見や学びにつながる。
	シークレットコード	○4×5の20枚のマーカーの上に隠された秘密の道順を見つける活動。一人ずつ挑戦し、間違えたら後ろに並ぶ。一人が3	●最初にクリアする人が出た後、全員がクリアするために個々がどのような関わりをしているか(チ

		回まで挑戦でき、その間に全員が正しい道順を通り切ることが目標（アクティビティ集参照）。	ームとしての意識があるか）。
振り返り		○体験を通して学んだことを漢字1字で表すとどんな漢字になるか（漢字カードの中から選ぶ）。それはどんな思いからか。	
準備物		絆カード、短ロープ、「集合写真」の情報カード、キーパンチセット、ストップウォッチ、漢字カード	
参加者の様子や感想		○課題解決の活動を通して、何度もエラーを修正しながら、お互いに助け合ってゴールに辿り着き、達成感を味わうことができていた。 ○「話したことのない人に勇気を出して話したことで、自分に自信がもてた」「目標を決め、それを達成できた時にみんなで喜びを共感し合えたのが楽しかった」等の感想が見られた。	
指導に係る気付き		○最後少し時間が余ってしまい、時間配分の難しさを感じた。タイムトライアル系の課題解決を仕組むことで、時間いっぱい挑戦できるような工夫も必要だと感じた。	